

「言葉の特徴や使い方」について理解を深め、話や文の中で使うことができるようにする指導、知識や経験と結び付けて考えを形成する指導を充実させましょう。

中学校では、「敬語」の設問に課題が見られました。「言葉の特徴や使い方」に関する内容を社会生活の中で使いこなせるよう、確実に習得させていくことが必要です。

また、文章に表れているものの見方や考え方を捉えて自分の考えをもつ際に、自分の考えの根拠となる具体的な表現を明確にすることに課題が見られました。そこで、本資料では、考えを形成する指導の具体を紹介します。

「なぜ?」「どうすれば?」を解決し、課題を克服!

言葉の特徴や使い方に関する単元の学習では確実に理解させていますが、なぜ身に付いていないのでしょうか。	指導改善①
[知識及び技能]と[思考力、判断力、表現力等]をどのように関連付けて指導したらよいのでしょうか。	
言葉の特徴や使い方に関する知識を定着させるための有効な指導方法はありますか。	指導改善②
考えを形成する指導において、どのようなことを大切にするとよいのでしょうか。	指導改善③

指導改善①

定義を暗記したり問題を繰り返し解いたりする学習で終わっていませんか?

ポイント

「思考力、判断力、表現力等」を育むためには、「知識及び技能」の定着が必要不可欠です。その際、思考、判断、表現することを通して、「知識及び技能」に示された内容の定着を図る指導が大切です。

「敬語」[知識及び技能](1)エ 言葉遣い

敬語の知識として基本となる尊敬語、謙譲語、丁寧語について、それぞれの定義を暗記したり練習問題を繰り返し解いたりする学習だけでは、実際の生活で敬語を適切に使えるようになるのは難しいことです。[思考力、判断力、表現力等]の学習の際に関連付け、実践的な学習を通して、生きて働く知識や技能として身に付けることが大切です。

例：第2学年「表現を工夫して書こう 手紙や電子メールを書く」
[知識及び技能]と[思考力、表現力、判断力等]「B書くこと」との関連

指導事項エ「推敲」の学習との関連「相手に応じて、敬語を適切に使い分ける」

観点を提示し、書いた文章を丁寧に見直す学習を取り入れましょう。

尊敬語と謙譲語の区別等に注意して文章を整えることで、「敬語」の知識が定着します。

相手に応じて、尊敬語や謙譲語が適切に使われているかに注意して読み返してみましょう。

お礼の手紙だから「教えてくれて」というのは間違っている。「相手に応じて」だから、「教えてください」が正しい。「また行ってもいいですか」は「伺ってもよろしいですか」に書き直そう。

相手に応じて適切に敬語を使い分ける。



ポイント

「A 話すこと・聞くこと」の学習においても、質問をしたり、経験したことを説明したりする際に、相手や場面に応じて敬語を使い分けることについての理解を深めることができます。

様々な場で、丁寧語が中心に使われますが、生徒自身が、相手や場面に応じて、敬語を適切に使い分けることができているかを自ら考えられるよう、意図的に取り上げて指導することが大切です。

生徒が「国語」を学ぶ喜びを実感できる授業へ

「学ぶ喜び」を単位時間の学習の中で感じるだけではなく、学習したことが、それ以降の授業や他の学習で活用できたときに「本物の喜び」となり、主体的に学ぶ意欲につながっていきます。そのため、他領域や他教科等の学習と関連させて指導することが大切です。

指導改善②

単位時間や単元の学習で終わることなく、学んだことを生かす場を大切に！

ポイント

帯時間等を工夫したり、他教科等との関連を図ったりして、生徒自身が学んだことを生かすことにより、言葉の特徴や使い方に関する内容の定着を図ることができます。

帯時間等を工夫し、他領域の指導と関連させて指導する

生徒が進める授業前の学習でも実践可能

・授業の冒頭で「思考力、判断力、表現力等」の「C読むこと」と関連させて指導する等、語感を磨き、語彙を豊かにする指導を意図的・継続的に行いましょう。

例：第2学年「走れ、メロス」抽象的な概念を表す言葉について考える

本文から、「笑う」という行動を表す言葉(表現)を探しましょう。

「憫笑」「嘲笑」「ほくそ笑む」「せせら笑う」という言葉があります。

「嘲笑」は、辞書に「相手をばかにして見下す笑い方」とあります。「走れ、メロス」では「憫笑」「嘲笑」のような漢語が、多く使われていると思います。

抽象的な概念を表す語句の量を増やす

他教科等と関連させて指導する

・総合的な学習の時間や特別活動などにおいて、国語で学んだ知識や技能を活用させましょう。

※R1指導改善資料参照

学年部や他の教科部との連携が必要です。授業外で行う手紙やレポートなどを作成する活動、スピーチなどの活動において、漢字や言葉の使い方(敬語・文法など)について見直す場を設定するなど、意図的に指導しましょう。

指導改善③

考えを書く際の指導のポイントを意識していますか？

ポイント

文章に表れているものの見方や考え方を捉えて自分の考えをもつ際には、自分は文章のどこからそう考えたのかを明確に示すよう指導しましょう。また、根拠を明確にする意義を考えることも大切です。

根拠を明確にして考えをまとめる学習をする

・「C読むこと」における「考えの形成」は、文章の構造と内容を捉え、精査・解釈することを通して理解したことに基づいて、既存の知識や経験と結び付けて考えをまとめたり広げたり深めたりしていくことです。

例：第1学年『『不便』』の価値を見いだす

筆者の主張に対する自分の考えをまとめましょう。その際、どこからそう考えたのかが分かるように例を挙げて書きましょう。

Aさんは、「私はいつも歩いて買い物に行くのは『不便』だと思っていたけれど、そうではないかもしれないと思った」と書いていますが、どの叙述が根拠になると思いますか。

「徒歩の方が発見や出会いの機会が増える」という叙述が根拠になると思います。

自校結果の分析・指導改善

調査結果を踏まえ、これまでの指導の成果と課題を明らかにしましょう。その上で、課題の要因を考察し、今後の指導方法を具体的に考えましょう。

1【分析】：自校生徒の実態

成果

課題

2【考察】：課題の要因として考えられること（指導・実態）

3【指導改善】：今後の具体的な指導